

令和7年度 学生生活の満足度調査結果（コミュニティ生活学科）

1 調査回答者

2年次6.2名.....（調査対象：64名 回答率：96.9%）

2 調査結果

1) 満足度調査

● 共通質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	カリキュラム(教育課程)	0人 0%	1人 2%	16人 26%	45人 73%	0人 0%	62人	98%
	授業	0人 0%	0人 0%	17人 27%	45人 73%	0人 0%	62人	100%
	ICTの活用	1人 2%	0人 0%	19人 31%	42人 68%	0人 0%	62人	98%
学生生活	教員のサポート体制	0人 0%	1人 2%	15人 24%	46人 74%	0人 0%	62人	98%
	チューターのサポート体制	0人 0%	0人 0%	13人 21%	49人 79%	0人 0%	62人	100%
	職員のサポート体制	0人 0%	0人 0%	17人 27%	45人 73%	0人 0%	62人	100%
	保健室	1人 2%	0人 0%	19人 31%	42人 68%	0人 0%	62人	98%
	学生相談室	0人 0%	0人 0%	19人 31%	43人 69%	0人 0%	62人	100%
キャリアアップ	就職支援体制	0人 0%	0人 0%	16人 26%	46人 74%	0人 0%	62人	100%
	資格取得支援体制	0人 0%	0人 0%	15人 24%	47人 76%	0人 0%	62人	100%
自治会活動	大学祭	0人 0%	4人 6%	29人 47%	29人 47%	0人 0%	62人	94%
	スポーツ大会	0人 0%	3人 5%	29人 47%	30人 48%	0人 0%	62人	95%
	自治会活動全般	0人 0%	2人 3%	29人 47%	31人 50%	0人 0%	62人	97%
施設	図書館	0人 0%	1人 2%	23人 37%	38人 61%	0人 0%	62人	98%
	食堂	1人 2%	4人 6%	19人 31%	38人 61%	0人 0%	62人	92%
	施設や設備全般	2人 3%	5人 8%	22人 35%	33人 53%	0人 0%	62人	89%
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	1人 2%	2人 3%	12人 19%	47人 76%	0人 0%	62人	95%

● 学科独自の質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	授業科目が豊富で充実していた。	0人 0%	0人 0%	15人 24%	47人 76%	0人 0%	62人	100%
	自分の将来の目標や適性にあわせて授業科目を自由に選べるのがよかった。	0人 0%	0人 0%	16人 26%	46人 74%	0人 0%	62人	100%
	学びたいと思っていたことを学ぶことができた。	0人 0%	0人 0%	17人 27%	45人 73%	0人 0%	62人	100%
	入学前に期待したとおり(又は期待以上)の授業を受けた。	1人 2%	0人 0%	17人 27%	44人 71%	0人 0%	62人	98%
学生生活	自分でチューター(セミナー)を選べるのがよかった。	0人 0%	0人 0%	12人 19%	50人 81%	0人 0%	62人	100%
	自分にとって大切な友達を作ることができた。	0人 0%	0人 0%	16人 26%	46人 74%	0人 0%	62人	100%
	自分の個性を大切にしてくれる学科だ。	0人 0%	0人 0%	14人 23%	48人 77%	0人 0%	62人	100%
	コミュニティ生活学科に入学してよかった。	0人 0%	0人 0%	13人 21%	49人 79%	0人 0%	62人	100%
	入学してきた時よりも成長した。	0人 0%	0人 0%	15人 24%	47人 76%	0人 0%	62人	100%

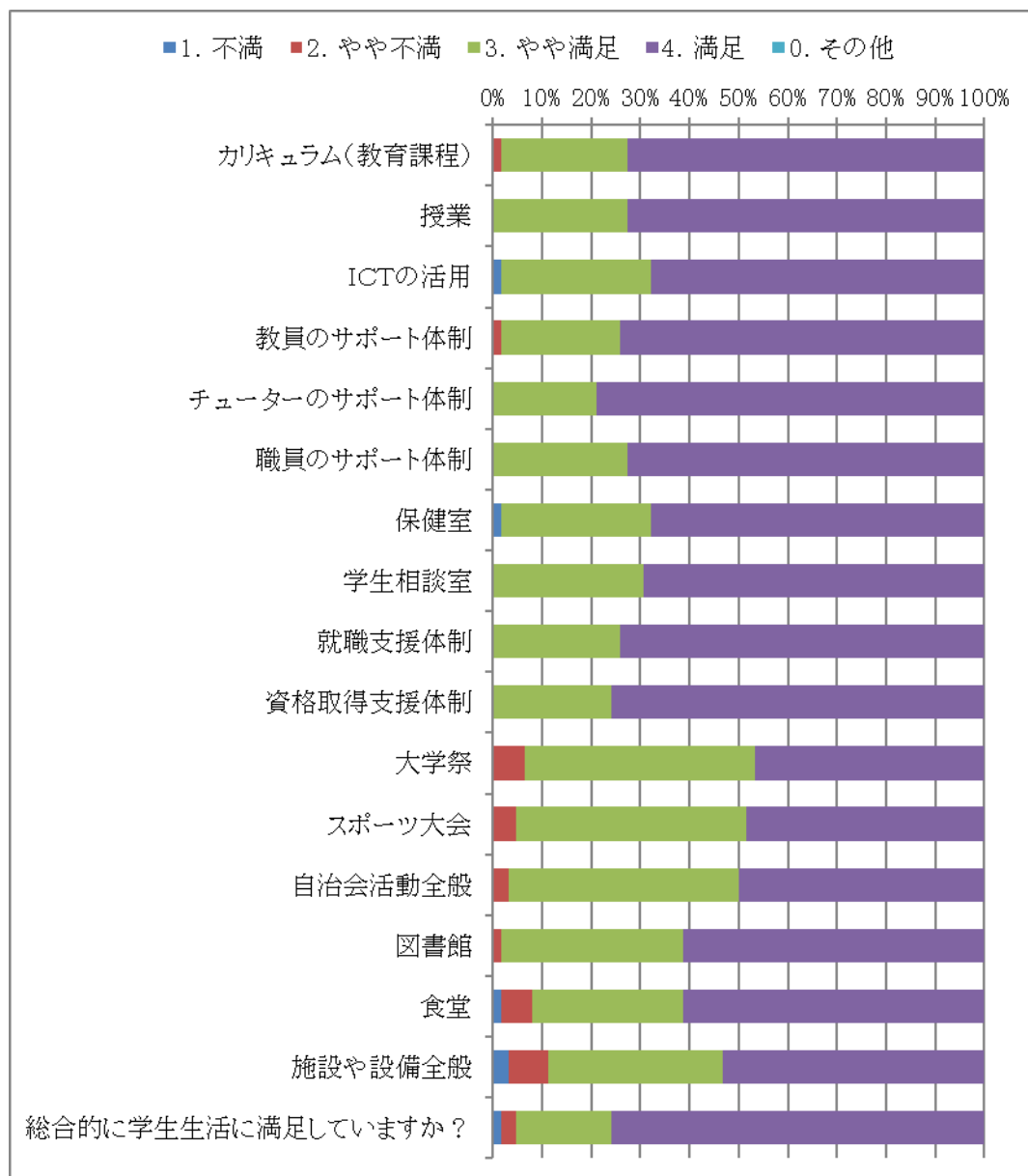
2) 自己点検

項目	1. 身に付かなかった		2. あまり身に付かなかった		3. やや身に付いた		4. 身に付いた		0. その他		計	満足度
専門的な知識や技術を身に付けることができた。	0人	0%	1人	2%	17人	27%	44人	71%	0人	0%	62人	98%
これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた。	0人	0%	1人	2%	16人	26%	45人	73%	0人	0%	62人	98%
人と積極的にかかわれるようになった。	0人	0%	1人	2%	19人	31%	42人	68%	0人	0%	62人	98%
社会や地域など、だれかのために役立ちたいと考えるようになった。	0人	0%	1人	2%	17人	27%	44人	71%	0人	0%	62人	98%
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった。	0人	0%	0人	0%	20人	32%	42人	68%	0人	0%	62人	100%
短大生活を通して精神的に成長した。	0人	0%	0人	0%	17人	27%	45人	73%	0人	0%	62人	100%
短大生活を通して自立できる自信が付いた。	0人	0%	0人	0%	18人	29%	44人	71%	0人	0%	62人	100%

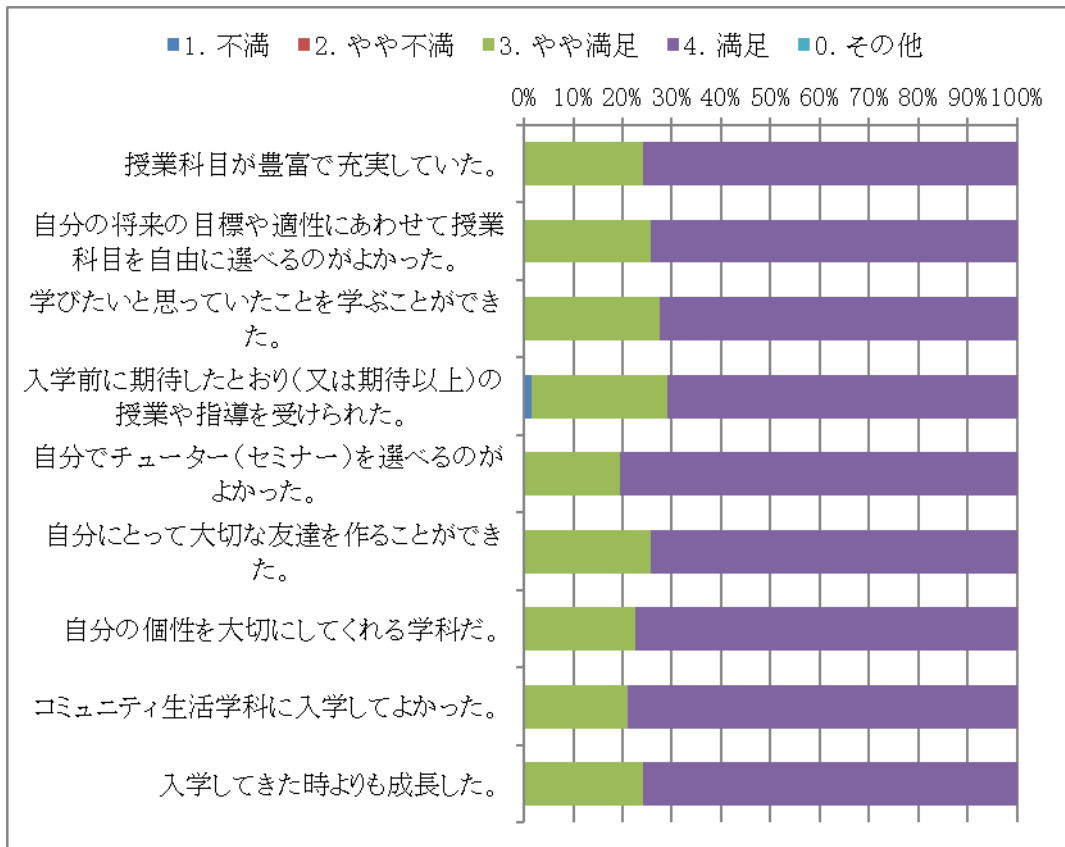
3 グラフ

1) 満足度調査

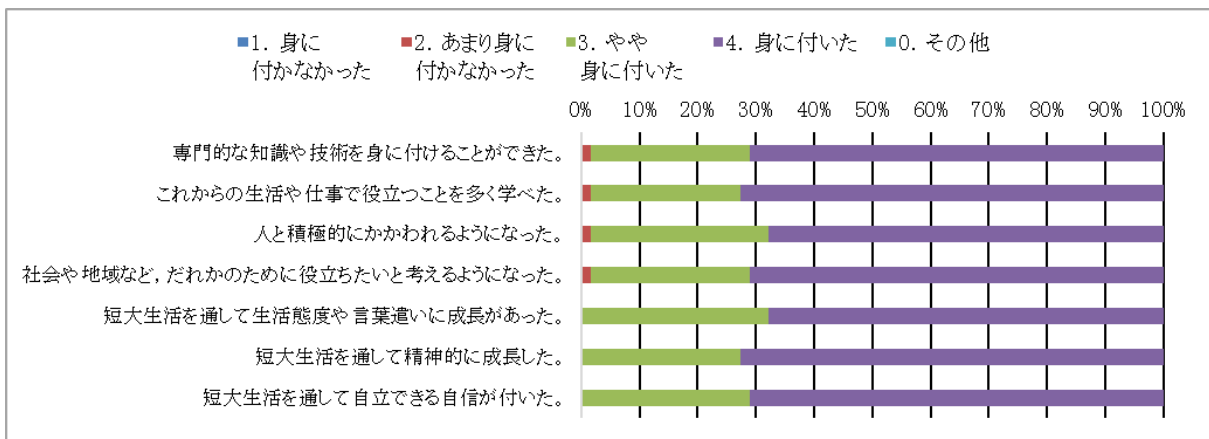
● 共通質問項目



●学科独自の質問項目



2) 自己点検



4 まとめ

1) 満足度調査

(1) 状況と課題

満足度調査については、共通質問項目において全体的に高い満足度が維持されており、特に、授業、チューターの支援体制、学生相談室、就職支援体制、資格取得支援体制の項目で満足度100%といった安定した評価が見られた。学科独自の質問項目についても、チューター選択制、授業内容やカリキュラムの自由度、学生の個性を尊重する教育・指導に関する項目で満足度100%が確認でき、総合的な学生生活の満足度も引き続き高水準であった。一方で、「施設や設備全般」や「食堂」などの生活環境に関する項目については、他項目と比較するとやや低い傾向が見られ、継続的な課題として挙げられる。

(2) 要因分析

全体的に高い満足度が維持されている要因として、入学前の理解と実際の学びとの一致が挙げられる。学生が学科の特徴や教育内容を十分に理解したうえで入学しており、その期待に応える教育が実践されていることが評価につながっていると考えられる。また、授業や行事、チューター制度を通じたきめ細やかな支援が、学生一人ひとりの充実感や安心感を高めていることも大きな要因である。

(3) 令和8年度の対策

引き続き、学生との丁寧なコミュニケーションを重視し、授業や行事の充実を図ることで学びの実感を高めていく。また、就職支援については個々の意欲や状況に応じた支援をさらに強化するため、キャリアセンターとの連携を深め、よりきめ細やかな対応を行う。加えて、施設や設備に関する課題については、学生の意見を踏まえながら改善に向けた検討を進める。

2) 自己点検のまとめ

自己点検については、多くの項目で高い達成度が見られ、特に、生活態度や言葉遣いについての成長、精神的に成長、自立への自信といった内面的な成長についても高い割合を示しており、2年間の学びの成果が表れているといえる。一方で、知識・技術の修得や役立つ学び、人との関わりに関する項目では、一部の学生において十分に身に付いたとの実感が得られていない状況が見られた。

令和7年度 学生生活の満足度調査結果（食物栄養学科）

1 調査回答者

2年次43名.....（調査対象：43名 回答率：100.0%）

2 調査結果

1) 満足度調査

● 共通質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	カリキュラム(教育課程)	0人 0%	0人 0%	16人 37%	27人 63%	0人 0%	43人	100%
	授業	0人 0%	0人 0%	17人 40%	26人 60%	0人 0%	43人	100%
	ICTの活用	0人 0%	3人 7%	15人 35%	25人 58%	0人 0%	43人	93%
学生生活	教員のサポート体制	0人 0%	1人 2%	10人 23%	32人 74%	0人 0%	43人	98%
	チューターのサポート体制	0人 0%	0人 0%	8人 19%	35人 81%	0人 0%	43人	100%
	職員のサポート体制	0人 0%	0人 0%	13人 30%	30人 70%	0人 0%	43人	100%
	保健室	0人 0%	1人 2%	18人 42%	24人 56%	0人 0%	43人	98%
	学生相談室	0人 0%	0人 0%	18人 42%	25人 58%	0人 0%	43人	100%
キャリアアップ	就職支援体制	0人 0%	1人 2%	13人 30%	29人 67%	0人 0%	43人	98%
	資格取得支援体制	0人 0%	1人 2%	13人 30%	29人 67%	0人 0%	43人	98%
自治会活動	大学祭	0人 0%	1人 2%	21人 49%	21人 49%	0人 0%	43人	98%
	スポーツ大会	0人 0%	2人 5%	21人 49%	20人 47%	0人 0%	43人	95%
	自治会活動全般	0人 0%	2人 5%	20人 47%	21人 49%	0人 0%	43人	95%
施設	図書館	0人 0%	0人 0%	11人 26%	32人 74%	0人 0%	43人	100%
	食堂	1人 2%	2人 5%	18人 42%	22人 51%	0人 0%	43人	93%
	施設や設備全般	0人 0%	1人 2%	18人 42%	24人 56%	0人 0%	43人	98%
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	0人 0%	0人 0%	14人 33%	29人 67%	0人 0%	43人	100%

● 学科独自の質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	食物栄養学科で行われている行事やボランティア活動	0人 0%	0人 0%	17人 40%	26人 60%	0人 0%	43人	100%
	食物栄養学科で行ったセミナー指導	0人 0%	1人 2%	12人 28%	30人 70%	0人 0%	43人	98%

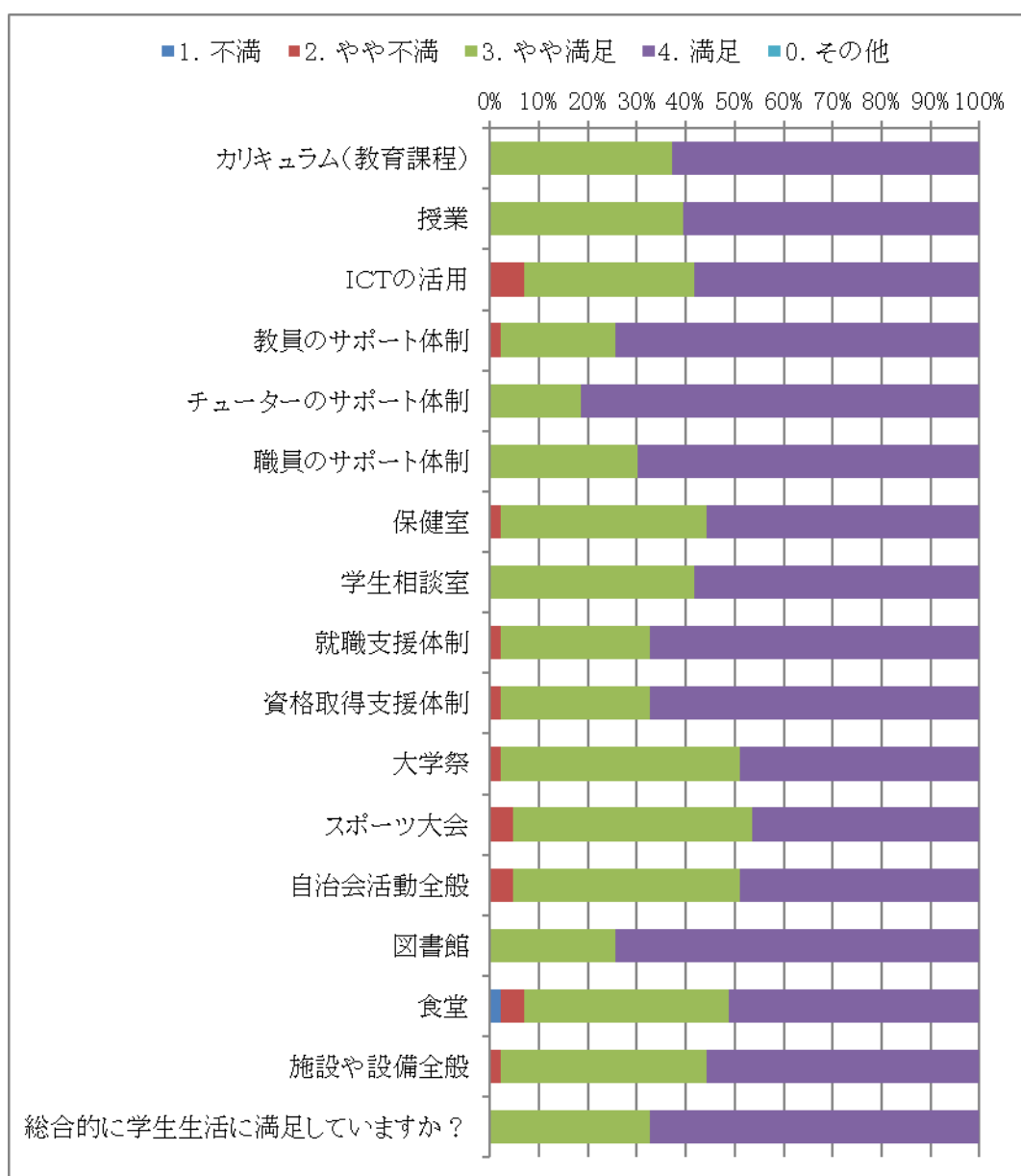
2) 自己点検

項目	1. 身に付かなかった		2. あまり身に付かなかった		3. やや身に付いた		4. 身に付いた		0. その他		計	満足度
栄養士として必要な専門的な知識や技術を身に付けることができた。	0人	0%	0人	0%	19人	44%	24人	56%	0人	0%	43人	100%
食物栄養学科の2年間で調理技術が向上した。	0人	0%	0人	0%	15人	35%	28人	65%	0人	0%	43人	100%
対象者に合った献立作成や調理, 栄養指導ができるようになった。	0人	0%	0人	0%	18人	42%	25人	58%	0人	0%	43人	100%
自らの食生活を振り返り, 自己評価することができるようになった。	0人	0%	0人	0%	16人	37%	27人	63%	0人	0%	43人	100%
短大生活を通して社会的に自立できる自信が付いた。	0人	0%	2人	5%	17人	40%	24人	56%	0人	0%	43人	95%

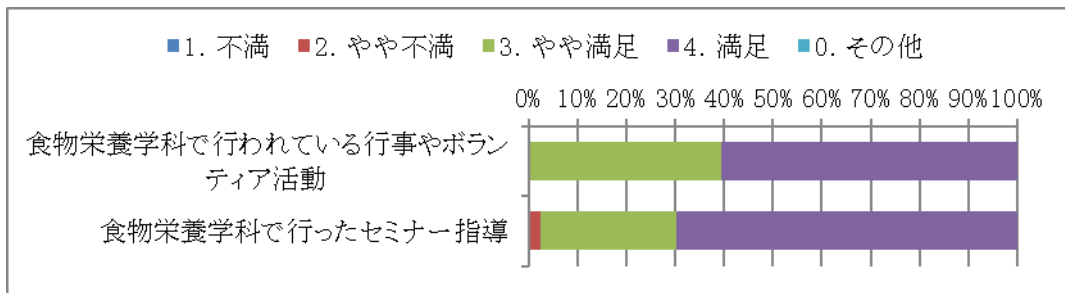
3 グラフ

1) 満足度調査

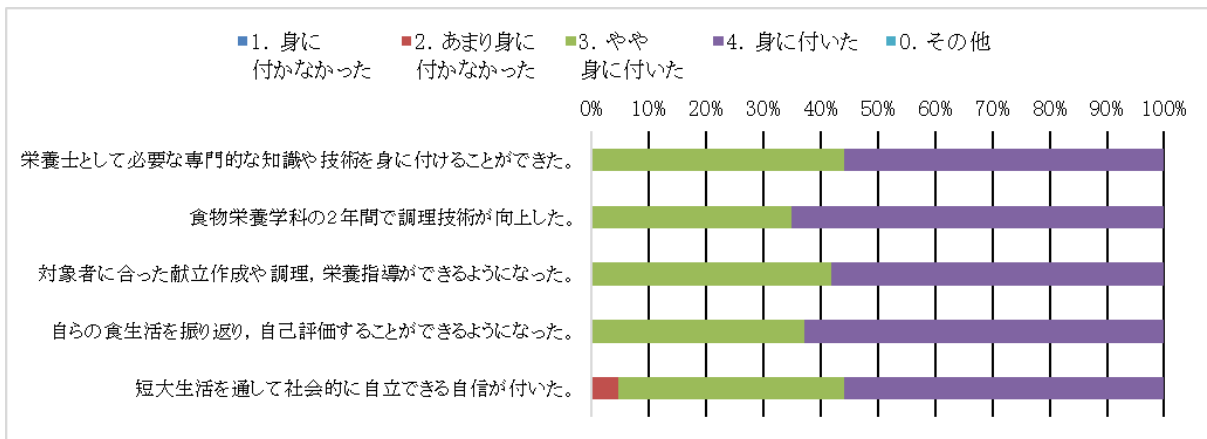
●共通質問項目



●学科独自の質問項目



2) 自己点検



4 まとめ

1) 満足度調査

(1) 状況と課題

今回の調査は6領域、19項目について行われた。

「教務」領域では、カリキュラム、授業、学科行事やボランティア活動についての3項目において、「満足」又は「やや満足」を回答した者をあわせると100%と高く評価されていた。ICTの活用については93%、セミナー指導については98%であり、おおむね満足と評価されていた。一方で、「不満」及び「やや不満」と評価した学生もおり、評価の要因については、調査する必要があると考える。

「学生生活」領域について、「満足」又は「やや満足」と回答した者は、チューターのサポート体制、職員のサポート体制、学生相談室はいずれも100%が満足と評価していた。また、教員のサポート体制と学生相談室については98%が満足していた。

「キャリアアップ」領域の「満足」又は「やや満足」と回答した者は、就職支援体制及び資格取得体制98%であり、学生への指導についておおむね満足されていた。

「自治会活動」領域の大学祭、スポーツ大会、自治会活動全般の3項目について、「満足」又は「やや満足」と回答した者は95%から98%であり、おおむね満足していたものの課題が見られた。

「施設」領域では、「満足」又は「やや満足」と回答した者は、図書館が100%、食堂が93%、施設や設備全般が98%であり、満足度が高くなかった項目については、改善が望まれる。

総合的な学生生活の満足度については、学科が設定している「満足」・「やや満足」をあわせて90%以上の目標に対して、今回の調査結果では100%であり、目標に達していた。

本学科の教育内容や学生生活の支援について、十分理解されていたものとする。

(2) 要因分析

「教務」領域の授業については、対面授業がほぼ予定どおりに実施されたことが高い満足度になった要因と考える。栄養士を始めとする各種資格を取得できる学科として、学生の学びを考えた授業を各教員が実施していたものとする。

「学生生活」領域では、教員・チューターや職員によるサポート体制、保健室及び学生相談室での満足度98%から100%であり、いずれも高く評価されていた。食物栄養学科では学生ひとり一人にきめ細かな学生指導を行っており、その成果が結果に反映されたものと思われる。

「キャリアアップ」領域の満足度が高かった要因としては、キャリアセンターやチューターによる個別の進路支援に向けたサポート体制が十分理解されており、学生が希望する進路支援を受けていたためとする。

「自治会活動」領域については、大学祭やスポーツ大会、自治会活動等が開催されたことにより満足度がいずれも95%以上と高く評価されていた。自治会活動の運営を担当する学生もおり、積極的に活動に参加し、楽しむ姿が多く見られ、充実した学生生活を過ごしたことが高い満足度に繋がったものとする。

「施設」領域については、図書館は「満足」又は「やや満足」をあわせて100%であり、学生のニーズに対応していたものと考えられる。一方で、食堂は満足度93%であり、より良い食堂の運営が望まれていることが分かる。施設や設備全般は98%であり、講義室や実験実習教室の施設環境や設備・備品の老朽化や講義室の机や椅子の不具合などが要因と考えられる。

総合的な満足度は100%であり、学科が設定している「満足」・「やや満足」が90%以上に対して目標を達成することができた。本年度も、学科における授業や様々な活動等を通して、学生自らが学生生活を充実させたいと努力しており、総合的に学生生活に満足していたものとする。

(3) 令和8年度の対策

教務においては、引き続き学科における授業内容を充実させるとともに、学科の行事やボランティア活動、卒業研究発表会等がさらに充実するよう取り組む。

セミナー&チューター制を活用して、引き続き学生に寄り添ったきめ細かい支援を行い、他部署と連携しながら、学業や学生生活、進路支援などを行い、満足度の向上に努める。

2) 自己点検のまとめ

自己点検の5項目については、「身に付いた」と「やや身に付いた」を合計して「身に付いた」を満足度評価とすると、すべての項目において「身に付いた」が95%から100%であり、高い満足度であった。

2年次の授業や栄養士の校外実習及び卒業研究発表会などを通して、栄養士としての知識や技術を身に付け、1年次よりもさらに自分の成長を実感したものと思われる。特に、「栄養士としての専門的な知識や技術」「調理技術が向上した」「対象者にあった献立作成、調理、栄養指導ができる」「食生活の自己評価」等は100%であり、「社会的に自立できる自信がついた」が95%であり、学生達が成長を感じていることが確認できた。今後も学生自身が成長を実感できるような学生支援に努めたい。

令和7年度 学生生活の満足度調査結果（保育学科）

1 調査回答者

2年次4.6名.....（調査対象：46名 回答率：100.0%）

2 調査結果

1) 満足度調査

● 共通質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	カリキュラム(教育課程)	0人 0%	0人 0%	21人 46%	25人 54%	0人 0%	46人	100%
	授業	0人 0%	0人 0%	22人 48%	24人 52%	0人 0%	46人	100%
	ICTの活用	0人 0%	2人 4%	24人 52%	20人 43%	0人 0%	46人	96%
学生生活	教員のサポート体制	0人 0%	0人 0%	20人 43%	26人 57%	0人 0%	46人	100%
	チューターのサポート体制	0人 0%	0人 0%	17人 37%	29人 63%	0人 0%	46人	100%
	職員のサポート体制	0人 0%	0人 0%	17人 37%	29人 63%	0人 0%	46人	100%
	保健室	1人 2%	0人 0%	24人 52%	21人 46%	0人 0%	46人	98%
	学生相談室	0人 0%	0人 0%	27人 59%	19人 41%	0人 0%	46人	100%
キャリアアップ	就職支援体制	0人 0%	0人 0%	14人 30%	32人 70%	0人 0%	46人	100%
	資格取得支援体制	0人 0%	0人 0%	12人 26%	34人 74%	0人 0%	46人	100%
自治会活動	大学祭	0人 0%	2人 4%	17人 37%	27人 59%	0人 0%	46人	96%
	スポーツ大会	0人 0%	1人 2%	21人 46%	24人 52%	0人 0%	46人	98%
	自治会活動全般	0人 0%	0人 0%	21人 46%	25人 54%	0人 0%	46人	100%
施設	図書館	0人 0%	0人 0%	14人 30%	32人 70%	0人 0%	46人	100%
	食堂	0人 0%	2人 4%	14人 30%	30人 65%	0人 0%	46人	96%
	施設や設備全般	0人 0%	0人 0%	20人 43%	26人 57%	0人 0%	46人	100%
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	0人 0%	0人 0%	16人 35%	30人 65%	0人 0%	46人	100%

● 学科独自の質問項目

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計	満足度
教務	授業科目が充実していた	0人 0%	0人 0%	17人 37%	29人 63%	0人 0%	46人	100%
	ピアレッスンで自分の力を伸ばすことができた。	0人 0%	0人 0%	11人 24%	35人 76%	0人 0%	46人	100%
	教育実習で保育力を伸ばすことができた。	0人 0%	0人 0%	11人 24%	35人 76%	0人 0%	46人	100%
	運動会等で実践力を伸ばすことができた。	0人 0%	2人 4%	12人 26%	32人 70%	0人 0%	46人	96%
	入学前に期待したどおりの授業や指導を受けられた。	0人 0%	1人 2%	16人 35%	29人 63%	0人 0%	46人	98%
学生生活	自分にとって大切な友達を作ることができた。	0人 0%	0人 0%	16人 35%	30人 65%	0人 0%	46人	100%
	保育学科に入学してよかった。	0人 0%	0人 0%	10人 22%	36人 78%	0人 0%	46人	100%

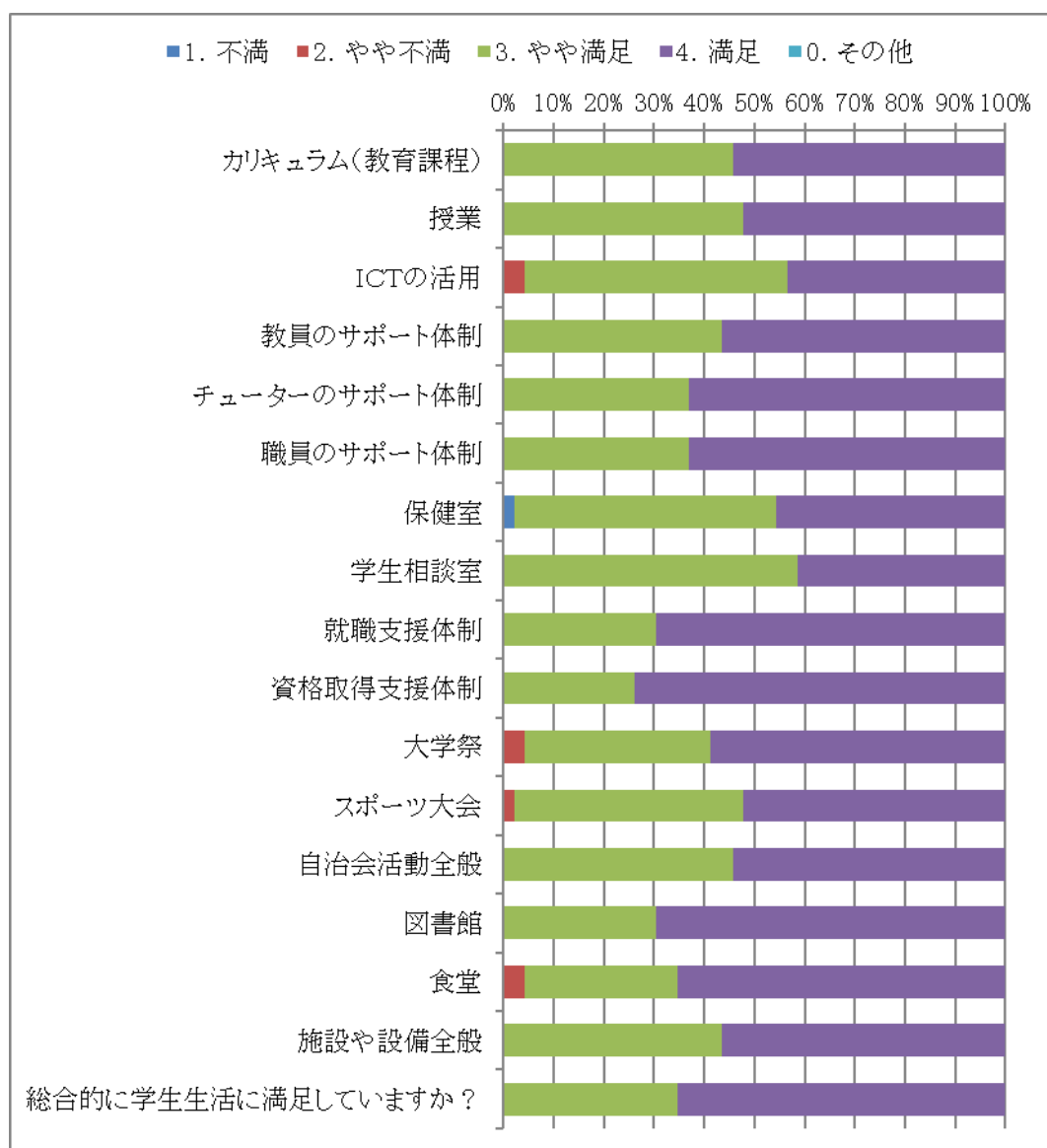
2) 自己点検

項目	1. 身に付かなかった		2. あまり身に付かなかった		3. やや身に付いた		4. 身に付いた		0. その他		計	満足度
短大生活を通して専門的な知識や技術を身に付けることができた。	0人	0%	0人	0%	14人	30%	32人	70%	0人	0%	46人	100%
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった。	0人	0%	0人	0%	14人	30%	32人	70%	0人	0%	46人	100%
短大生活を通して精神的に成長した。	0人	0%	0人	0%	12人	26%	34人	74%	0人	0%	46人	100%
短大生活を通して自立できる自信が付いた。	0人	0%	0人	0%	14人	30%	32人	70%	0人	0%	46人	100%
自立した大人として責任を持った行動ができるようになった。	0人	0%	1人	2%	12人	26%	33人	72%	0人	0%	46人	98%
チームワークを大切にすることができるようになった。	0人	0%	0人	0%	12人	26%	34人	74%	0人	0%	46人	100%
周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった。	0人	0%	0人	0%	14人	30%	32人	70%	0人	0%	46人	100%
社会や地域など、誰かのために役に立ちたいと考えるようになった。	0人	0%	0人	0%	15人	33%	31人	67%	0人	0%	46人	100%

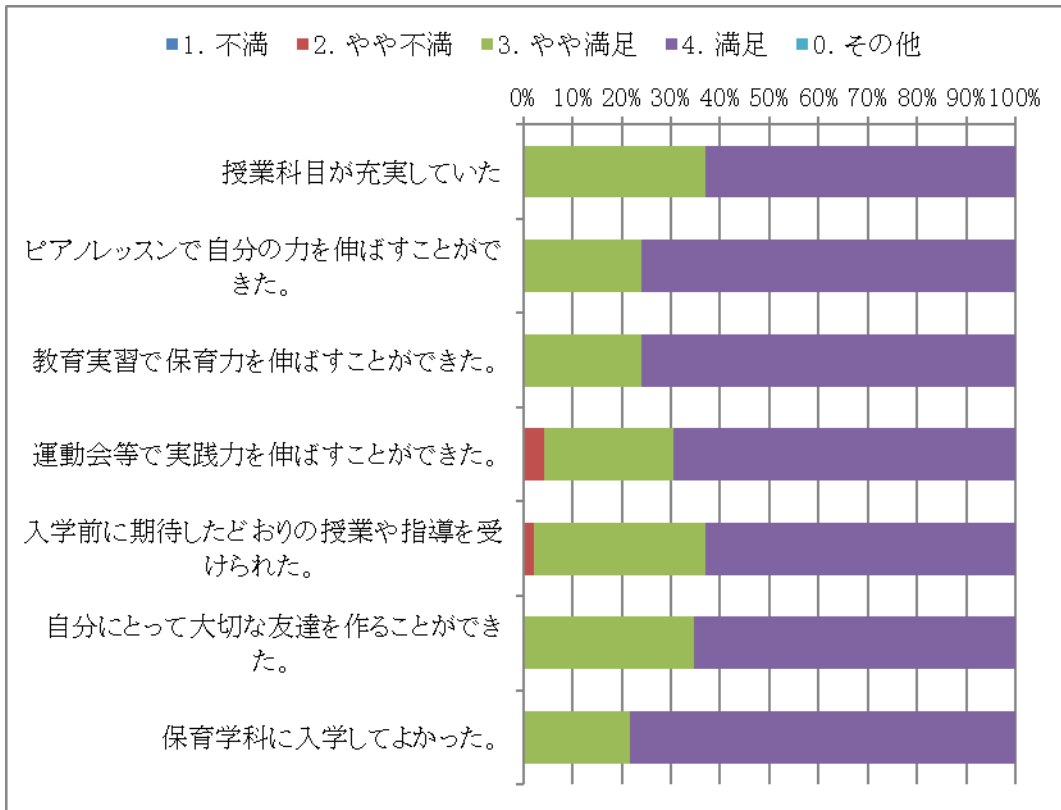
3 グラフ

1) 満足度調査

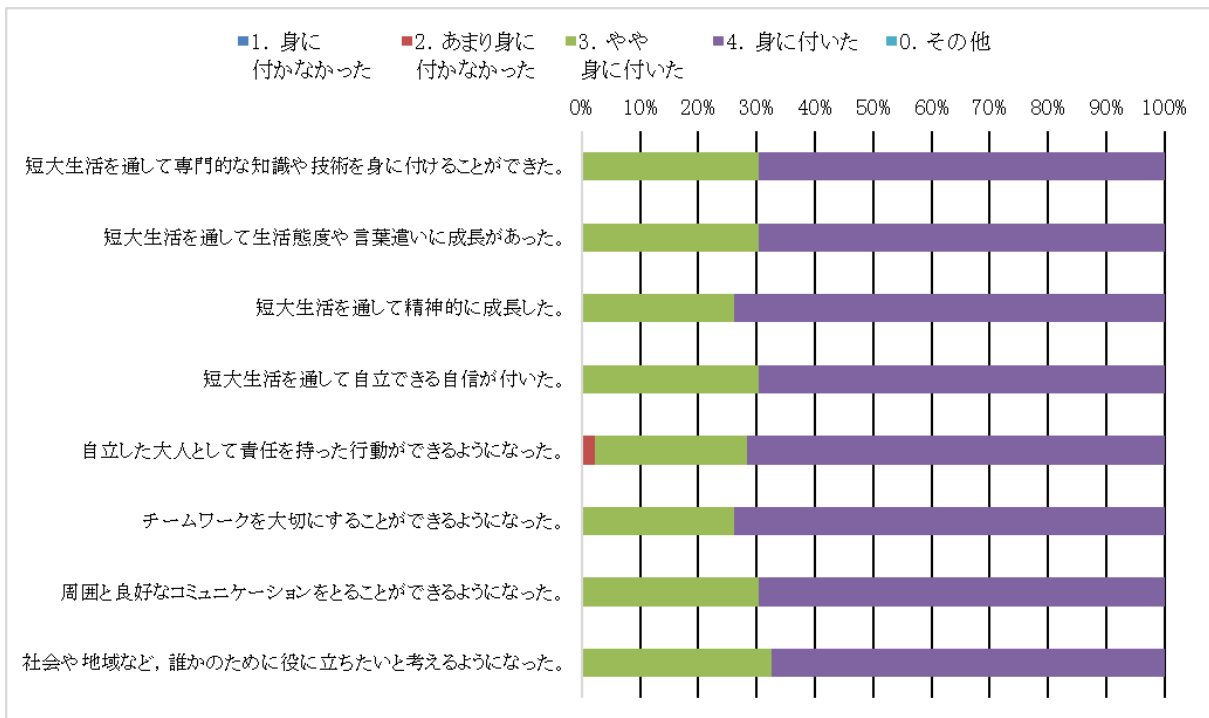
● 共通質問項目



●学科独自の質問項目



2) 自己点検



4 まとめ

1) 満足度調査

(1) 状況と課題

前年度との比較においては、全ての項目において満足度が4～19ポイント向上している。ピアノレッスンや教育実習、資格・就職支援といった保育者養成の核心となる実技・専門教育において7割を超える極めて高い満足度を得ており、「保育学科に入学してよかった」と全学生が肯定する極めて良好な教育環境を実現している一方で、ICTの活用や保健室の運用、学内行事といった一部の生活・施設面において数名の「やや不満」が見受けられるため、今後はこれら細部における学生の個別ニーズを精査し、ソフト・ハード両面での微調整を行うことが、完全な満足度達成に向けた継続的な課題と言える。

(2) 要因分析

実技・キャリア支援における圧倒的な満足度は、保育の現場において必要なスキルに直結するピアノレッスンや教育実習といった専門教育が、個々のレベルに合わせた高い質で提供されていることに加え、資格取得から就職までの一貫したサポートが学生の将来不安を効果的に解消していることが主な要因と考えられる。また、教員以上に事務職員やチューターの評価が高いことから、事務的な手続きや日常の悩み相談において、学生が孤立を感じない心理的なサポートや居場所作りが、高い帰属意識に繋がっている。

(3) 令和8年度の対策

学科の指導の強みである「ピアノレッスン」は非常勤講師と連携し、引き続き高い指導力の維持に努める。ピアノ演奏のスキルの向上度合いがわかるように可視化する方法を検討するよう働きかける。

今後は、本学の強みである実習指導やキャリア支援の質を維持・継承しつつ、僅かな不満が見られたICT環境の整備や保健室・食堂等の利便性向上に向けて、学生の具体的な要望をヒアリングし個別ニーズに即したソフト・ハード両面の微調整を行うとともに、大学祭等の行事企画においては学生主導の参画機会を広げることで、期待値と実態のミスマッチを解消し、より一層一人ひとりの学生が「自分らしく成長できる環境」を磨き上げていくことが求められる。

2) 自己点検のまとめ

全8項目中7項目で満足度100%を記録し、特に「精神的成長」や「チームワーク」において約74%の学生が強い成長を実感している。専門知識の習得に加え、生活態度や対人能力、社会貢献意欲といった「人間力」の形成が極めて高いレベルで実現されている現状が示されている。実技・実習を中心としたカリキュラムが、単なるスキルの習得に留まらず、他者との協調性や自己効力感を育む全人的な教育として機能していることが、この高い自己評価に直結していると考えられる。唯一「責任ある行動」に2%の未達成感が見られるため、今後は学生がより主体的に判断し行動する機会を意図的に増やすことで、全学生が揺るぎない自信を持って卒業できるよう支援を継続することが重要である。